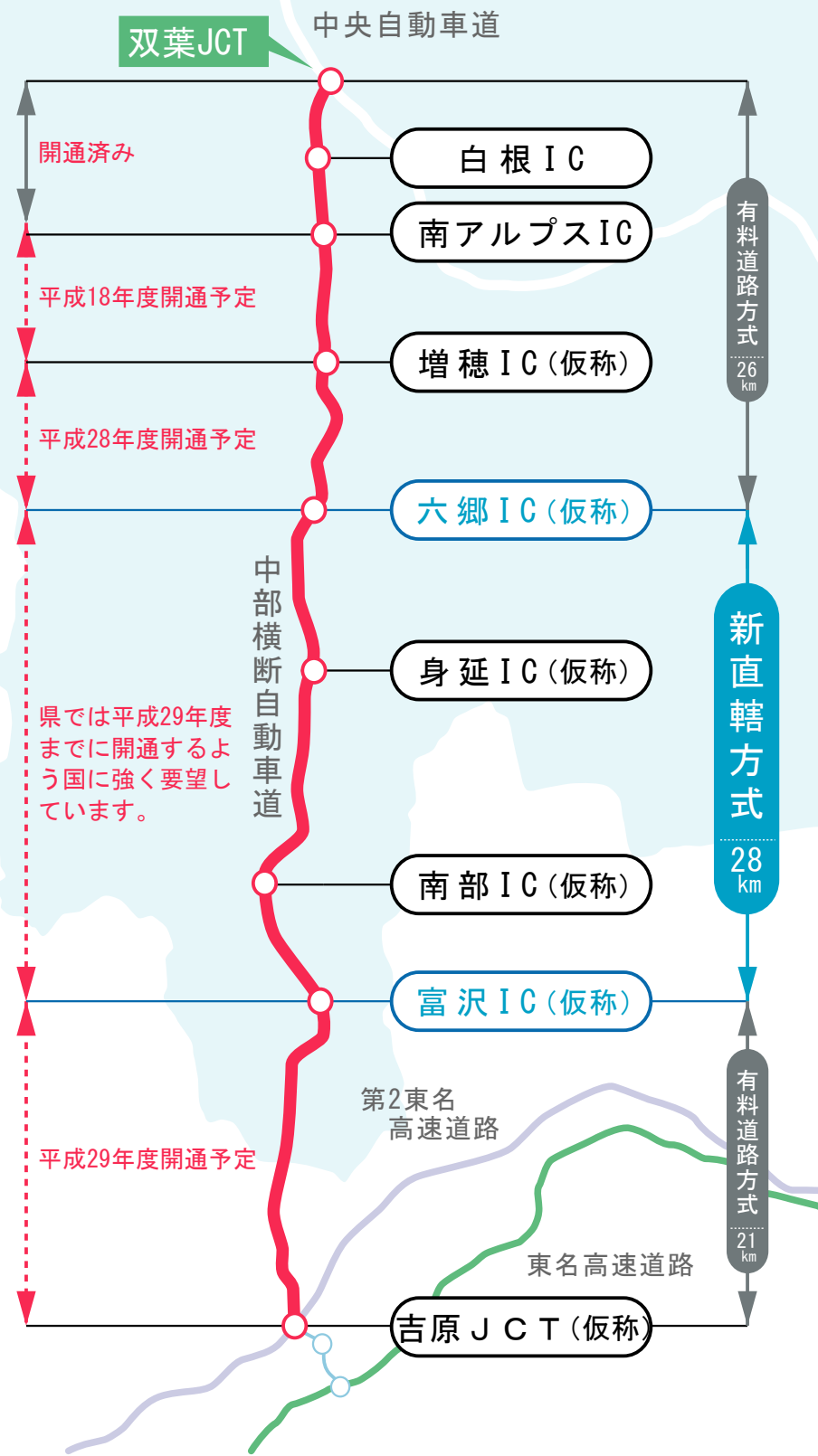


期待される将来像

中部横断自動車道が開通することによって、移動時間の短縮はもとより、災害時には県民の命を支える道路にもなるなど、本県の産業・経済・観光・安全など、さまざまな面で大きな効果が期待できます。



移動時間の短縮

静岡市・甲府市間は国道52号を利用するのに比べ約1時間も短縮され、JRの特急電車よりも短時間になります。

完熟フルーツを産地直送

フルーツをはじめとする本県の農産物を、荷痛みが少なく質の良い状態で出荷できるようになります。

新鮮な魚の供給促進

生きの良い魚をより新鮮なうちに入ることができるようになります。

観光の多様化

身延山をはじめとする観光スポットや温泉地へのアクセスが良くなり、新たな観光ルートの開発が期待されます。

高次救急医療施設などの選択肢拡大

身延町、南部町に住む人たちが、1時間以内で高次救急医療施設に通院できるようになります。

信頼性の向上

雨量規制区間の解消が図られるとともに、災害時の代替路としても機能し、広域的防災体制が強化されます。

高速バスへの期待

高速バス路線が新設されることにより、ビジネスや行楽などの利用者が増加し、地域間交流の拡大が期待されます。

トピックス

「中部横断自動車道」早期全線開通へ



▽長期にわたる整備の歴史
昭和五十七年五月中部横断自動車道 甲府―清水線建設促進期成同盟会設立から二十五年。この間、道路公団の民営化など、状況の変化はあったものの「新直轄方式」の導入決定でようやく「早期全線開通」が見込めることになり、山梨県にとって悲願の開通が現実のものとなってきました。

▽なぜ、「新直轄方式」を選んだのか
中部横断自動車道は、県土の南北方向の基幹軸を形成する幹線として、本県にとって不可欠な道路です。しかし「有料道路方式」での建設は民営化された高速道路株式会社が行うこととなり、採算性がより厳しく問われるため、これまでのように「有料道路方式」のみで進めるには限界があります。このため、県の負担は生じるものの「早期開通が見込めること」「通行料金が無料であること」などから、県民の総合的な利益を考え、「新直轄方式」を導入し、「有料道路方式」と二本立てで建設することが最も適切であると判断しました。

本年2月7日に開催された第2回国土開発幹線自動車道建設会議において、本県が強く要望してきた中部横断自動車道への「新直轄方式」の導入が決定となりました。「新直轄方式」とは、国が高速道路を整備するために導入された制度であり、事業費の3/4を国が、1/4を県が負担します。本県の場合、特例措置により1/4の負担がさらに軽減されることとなります。

昭和57年5月	中部横断自動車道 甲府―清水線建設促進期成同盟会設立	平成5年11月	増穂町～双葉町間の施行命令
平成元年1月	第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において基本計画策定	平成8年12月	整備計画区間 清水市～増穂町 59km
平成3年12月	整備計画区間 増穂町～双葉町 16km	平成10年12月	清水市～増穂町間の施行命令
	基本計画区間 清水市～増穂町 59km	平成14年3月	白根IC～双葉JCT間6.8km開通
		平成16年3月	南アルプスIC～白根IC間3.0km開通
		平成18年2月	富沢IC(仮称)～六郷IC(仮称)間が新直轄方式に決定